

平成24年11月24日に開催した「平成24年度桂川・相模川流域協議会流域シンポジウム／水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」の内容は次のとおりでした。

名 称	平成24年度桂川・相模川流域協議会流域シンポジウム／水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム		
テーマ	川の声聞こうよ 桂川～相模川 ー絶滅危惧種 カワラノギクノ保全ー ー山梨・神奈川県が共同して行う水源環境の保全・再生ー		
開催日時	平成24年11月24日(土)13:00～17:00		
開催場所	相模女子大学 3号館 314教室		
出席者	天野望(主催者あいさつ・パネリスト)、浅枝隆(パネリスト)、木平勇吉(パネリスト)、久保重明、井伊秀博、片山幸男、五十嵐淳一、坂井マスキ、井上貞子(以上、県民フォーラムチーム)		
参加者	268名	意見数	34件
内 容	<p>1-1. 主催者あいさつ 桂川・相模川流域協議会 代表幹事 倉橋満知子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○流域シンポジウムは、毎回、桂川・相模川が抱える課題や問題をテーマにしまして、本日で15回目となりました。今回は水源環境保全再生県民フォーラムと共同開催ということで、多数ご参加いただいた。 ○流域協議会は、シンポジウムで皆さんに問題提起をし、解決や対策へ向けて行動することを行ってきた。 ○今回は、相模川の河原や河川敷の植生変化や生態の危機を調査し、保全に取り組んできたことを踏まえ、次なる行動を皆さんに提案したい。テーマで「川の声聞こうよ 桂川～相模川」、今日はカワラノギクの声が皆さんに届くことを願う。 <p>1-2. 主催者あいさつ 水源環境保全・再生かながわ県民会議 副座長 天野望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神奈川県では、平成9年度から「水源の森林づくり事業」に取り組み、平成19年度以降は、県民の皆様から、個人県民税の超過課税、いわゆる「水源環境保全税」をご負担いただいて、水源環境の保全・再生に計画的に取り組んでいる。 ○県民会議は、この水源環境保全税を財源として進められる事業が効果的に実施されているかを点検・評価するとともに、本日のような県民フォーラムの開催などを通じて、事業の状況を県民の皆様へ情報提供していくことを目的として設置された組織である。 ○今回のフォーラムは、桂川・相模川流域協議会と共同して開催するもので、桂川・相模川流域の水源環境を山梨・神奈川の両県で守ることの必要性や重要性について考えていく。 <p>2. 【第1部】基調講演「生物多様性を考える」 東京大学名誉教授 養老孟司</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生物多様性という言葉がなぜ必要で、それを言っている人間の側、あるいは言われている社会の側から見て、それは一体何なのだろうという話を申し上げたい。 ○人間の意識が持った最も強い機能の1つは、「同じにする」という働き。感覚はいろいろ違うというのに、意識は同じとする。動物は多分同じにしない。感覚が優先する。 ○昆虫などは3000万種あるとか言っているが、それを皆さんが言葉にするときは「虫」という一言。乱暴なだけでも、意識がそれだけ乱暴なことをしていても、皆さん何とも思っていない。なぜかといったら、意識が一番偉いと思っているから。でも、素直に感覚に従うと、生き物は皆違う。 ○現代社会とか近代とか言われるものは、意識がどんどん優先していく社会だから、ものが同じになってくる。どこに行ってもコーヒーを飲もうと思うと同じコーヒーショップになってきて、途上国に近いから、そこのコーヒーショップのコーヒーも安いだろうと思うと、値段まで同じ。世界というのは、そうやって同じになっている。それを国際化とか言っているわけで、それを進歩とか文明と呼ぶ。 ○いわゆる環境問題や生物多様性という言葉が出てくる背景そのものが、このような問題にあると私は思っている。人間は意識中心だから、やはり考えるのは意識なので、一番偉いのはおれだと思っている。 ○生き物は全体としてつながっていますよ(生態系)という話がある。でも人間というのは、できるだけつながらない格好で生き物を利用してきた。生き物というのは、お互い同士がつながっている。それを人間が切っている。 ○自然というのはいいものだという誤解。自然というのは、いいも悪いも関係ない、中立である。自然の良さというのは、そこにある。良いから森に行くのではなくて、森に行く人間世界がいかにかゆがんでいくかわかる。 		



養老孟司氏

3. 【第2部】カワラノギクの保全活動報告

テーマ：「相模川にカワラノギクを復活させよう！」

①報告（映像）タイトル「相模川のカワラノギクをたずねて」

桂川・相模川流域協議会流域によるカワラノギクの保全活動について、DVDによる報告が行われた。

②カワラノギクの保全について 相模原市立博物館 秋山幸也氏

- 河床の安定による草地化、他の植物が生えている、河川敷の整地利用、車両の進入による立地の荒廃、それから外来植物（コセンダングサなど）が覆ってしまう、そのような複数の原因が合わさって、カワラノギクは絶滅危惧植物になってしまった。
- 今私たちがやるべきことは、群落の広さと数が十分に回復するまでは人間が手を掛けて生育していくこと。他の植物を抜き取ってでも、カワラノギクだけの群落をつくっていくことだと思ふ。カワラノギクの保全地を維持するのは大変である。河原は砂漠のような厳しい環境である。真夏の暑いときに草刈をしたり、水やりをしたり、種まきをしたり、一番寒い寒風吹きすさぶ中で種取りをしなければいけない。
- 河川管理者（県・国土交通省）などと地域が協力して、さらに保全作業に協力してくれる仲間をふやしていく必要がある。



秋山幸也氏

③提案（みんなのできること）

カワラノギクの保全活動を行っている4団体（カワラノギクを守る会、NPO 法人愛・ふるさと、相模川湘南地域協議会、さがみはら地域協議会）から課題についての報告の後、カワラノギク保全活動への参加の呼びかけが行われた。

【課題についての報告】

- カワラノギクを守る会の会員は、現在は36名であり、高齢化が進み、若い人が入らない。ボランティアをいかに広げていくかということが一番の課題。
- ボランティアだけでは限界があり、行政も協力して一緒にやっていくということが大事。
- 私どもが寒川の河川敷でカワラノギクを始めようとしたのは、昨年の5月。2年前に桂川・相模川流域協議会は、環境調査として相模川流域にシナダレスズメガヤという外来種がどのように繁茂しているかという調査事業を行った。寒川の河川敷は、流域の中でも最も広い繁茂した場所になっていた。
- シナダレスズメガヤという外来種を駆除しないことには幾ら頑張っても下流域では玉石河原は望んでも出ない。これから私たちは、カワラノギクの再生と同時に、シナダレスズメガヤを駆除して、本来の河原をつくり上げていきたい。



4団体による活動報告

【参加の呼びかけ】

- 相模川の河原は元の姿ではなくなっているため、カワラノギクの保全活動は非常に厳しい状態にあります。このため、1月のカワラノギクの種採り、3月の種まき、5月から9月にかけての草刈など人の手をかけないと保全することができません。この活動は、単にカワラノギクを保全するだけでなく、河原全体、河原の生態系の保全につながる活動でありますので、皆様のご協力をお願いいたします。

4. 【第3部】パネルディスカッション

テーマ：「山梨・神奈川県が共同して行う水源環境の保全・再生」

- パネリスト 天野 望氏（旧津久井町長）
浅枝 隆氏（埼玉大学大学院理工学研究科教授）
木平 勇吉氏（東京農工大学名誉教授）
長江 良明氏（山梨県森林環境部技監、森林整備課長）
- 進行 田崎 日加理氏（フリーアナウンサー）

- ①水源環境保全課今部課長より、資料を用いて、神奈川県の水源地環境保全・再生の取り組みについて説明を行った。
- ②山梨県森林環境総務課大堀課長より、資料を用いて、山梨県の森林環境税による取り組みについて説明を行った。
- ③アンケートの設問に沿ってパネルディスカッションが行われた。

(天野氏)

- 水源環境保全税に関心が低いということは、神奈川県の水資源対策が、東京都などに比べると成功したからではないかと思う。水に対する心配がないということが、本来は日常生活で最も大事な水について関心を持たないでいられるということ。ただし、水源環境保全税について、県民の関心が低いからといって、この税で行う事業の重要度が低いということではない。

(浅枝氏)

- 相模川と桂川と一緒に考える。これは非常に重要なこと。たまたま、人間は神奈川県と山梨県に分かれて住んでいます。けれども川は一体です。山梨県の人、神奈川県の人を考えたときに川に接しなくてははいけないし、神奈川県の人、山梨県の人を考えたときに川を見ていかなくてははいけないということ。
- 玄武岩から出てきている湧水のほかにも、流域から、やはり生活排水からかなり燐も出ています。やはり皆で協力して、生活排水から出す汚水を減らしていくことを考える必要がある。



パネルディスカッション

【水源環境保全税が、上流の山梨県での森林整備や生活排水対策に活用されることについて】

(参加者1)

- 目の前の施策だけではなくて、ある程度長期的な施策になっているところが、非常に納得できる。これなら、税金を納めていいなと思った。

(参加者2)

- 県の枠を超えて協力してくださっているというのが、とてもありがたいと思った。

(参加者3)

- 清流センターからの凝集処理だけでは不十分。上流の富士北麓センターからの凝集処理もあわせて行うべき。

(木平氏)

- 神奈川県は納税者から集められた税金が、適切に使われているかどうかというのを評価するのが私たちの役割。事業をどれくらいやったのではなくて、県民が、豊かな水を本当に出してきたかどうか、本来の目的である。山の整備をするというのは一種の手段であって、究極的には、豊かな清らかな水を我々が使えるということ。しかし、それを評価することは極めて難しい。

(長江氏)

- 神奈川県は皆様から大事な税金をいただいて、この事業を始められることについて御礼申し上げる。
- 予算が確保できたからといって、勝手に間伐作業など行うわけにはいきません。所有者の方々に対して丁寧な説明を行いながら事業を進めていく必要があります。行政と一体となって事業体（森林組合）の方々、丁寧な仕事をやっている。

【まとめ】

(天野氏)

- 上流と下流の県が協定を結んで、生活排水対策、森林保全対策に取り組むのは、全国で初めて。
- 本日も参加いただいた方の大半は、重要な事業だにご認識をされたと思います。この神奈川県の方針について、私たち県民会議でも時間をかけて議論しておりますが、広く県民の皆様にもご理解をされたのかなと感じた。

(長江氏)

- しっかり森林整備を行い、皆様に効果のほどのご報告できるように頑張っていきます。

(木平氏)

- 税金を納めて、それをどのように使うかということについては、山梨県も神奈川県も同じだが、神奈川県は、水というものに焦点があり、山梨県は、木材とか森林に焦点がある。共同事業を行っていくというのは非常に有意義だが、十分な相互理解に基づいて、試行錯誤を進めていく必要がある。

(浅枝氏)

- 水質というのは、流域の皆さん一人一人の心がけで決まってくるもの。水質がよくなれば、単に飲み水がよくなるだけではなくて、周りの自然さまざまところに影響を及ぼす。皆さんで水質を良くしようという取り組みを進めることが大切。

平成24年度桂川・相模川流域協議会流域シンポジウム／
 水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
 アンケート集計結果

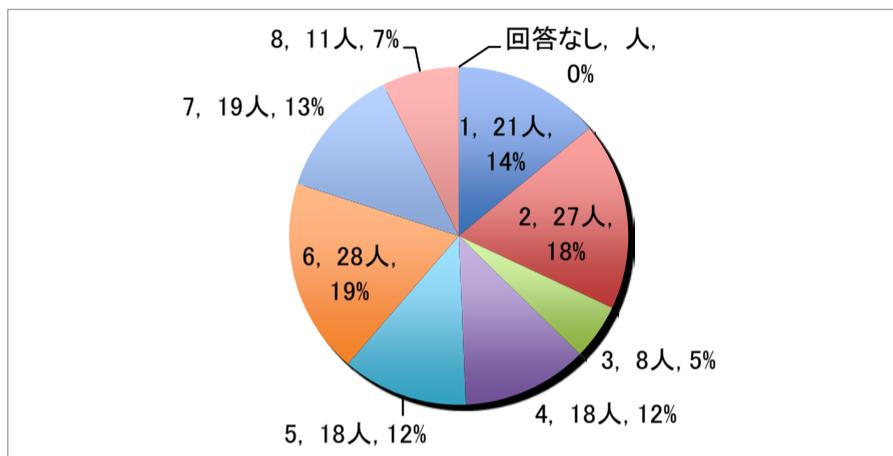
今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

○ 回収したアンケート総数…137枚

Q1 今回のイベントを何で知りましたか。（一部複数回答あり）

1. 県のたより 2. チラシ 3. 県のホームページ 4. 広報さがみはら
 5. 流域協議会会員から 6. 所属する団体を通じて 7. 知人から 8. その他

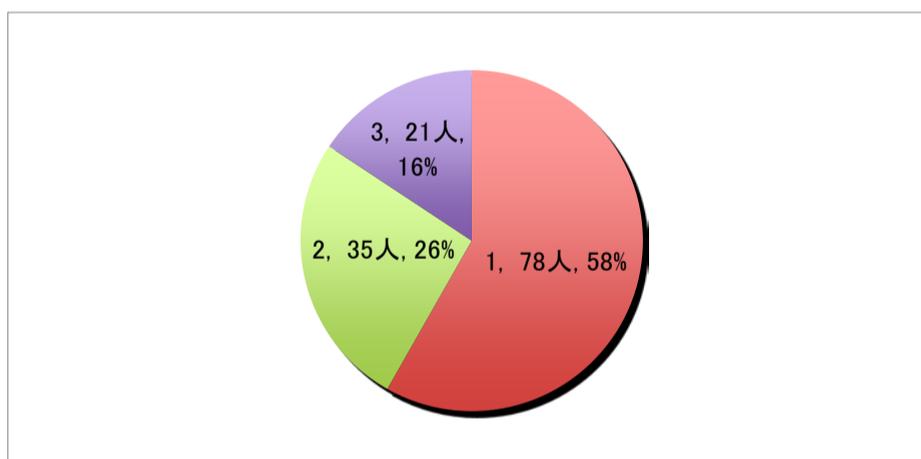
1	21人
2	27人
3	8人
4	18人
5	18人
6	28人
7	19人
8	11人
回答なし	人
回答数合計	150人



Q2 今回のイベントはいかがでしたか。（一部複数回答あり）

1. 良かった 2. ふつう 3. 改善が必要

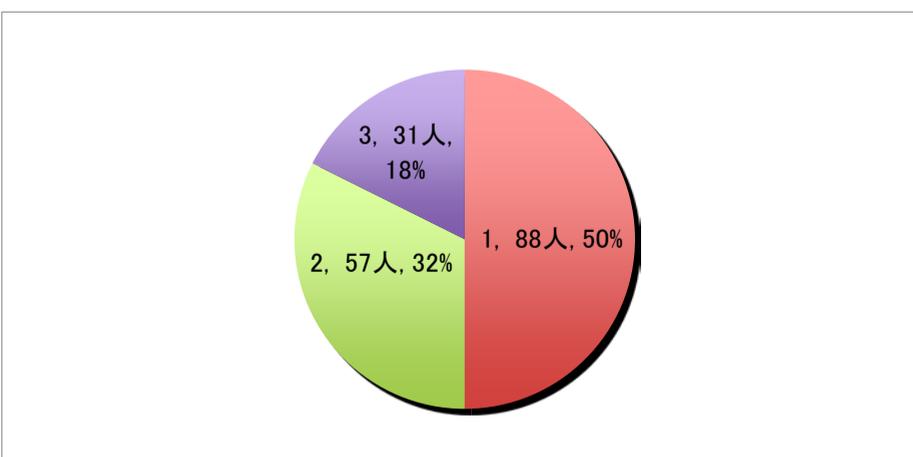
1	78人
2	35人
3	21人
回答なし	11人
回答数合計	145人



Q3 今回のイベントで良かった内容はどれですか。（複数回答可）

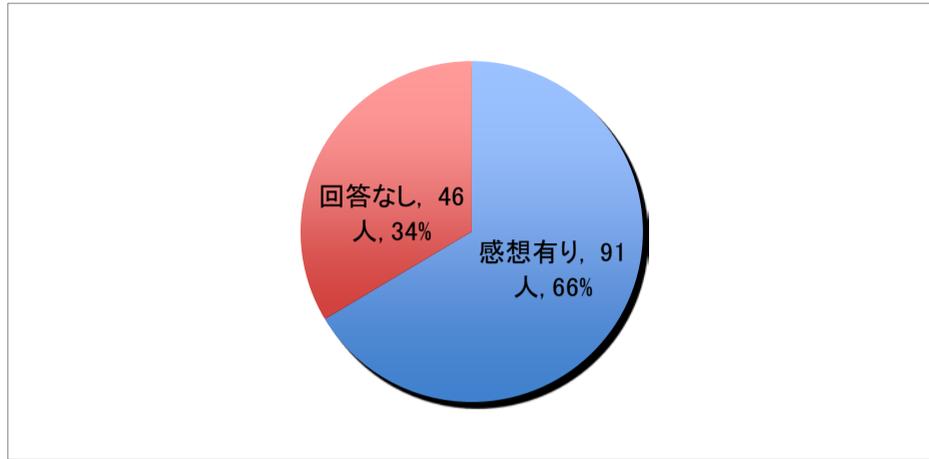
1. 養老孟司氏の講演 2. カワラノギクの保全活動報告 3. パネルディスカッション

1	88人
2	57人
3	31人
回答なし	17人
回答数合計	193人



Q 4 養老孟司氏の講演「生物多様性について」の感想をお聞かせください。

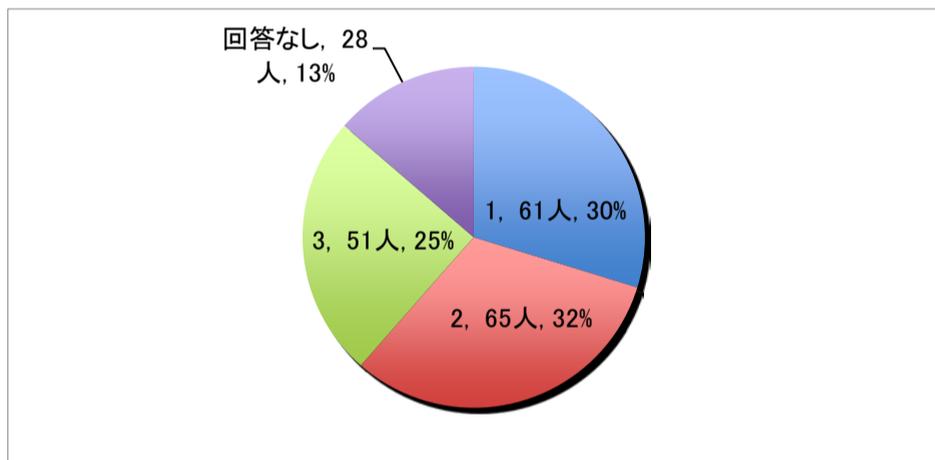
感想有り	91人
回答なし	46人
回答数合計	137人



Q 5 「カワラノギクの保全活動報告」の中で特に興味を持った内容は何ですか。（複数回答可）

1. 映像記録「カワラノギクを訪ねて」
2. 講演「カワラノギクの保全活動について」
3. 各団体の活動紹介及び課題提案

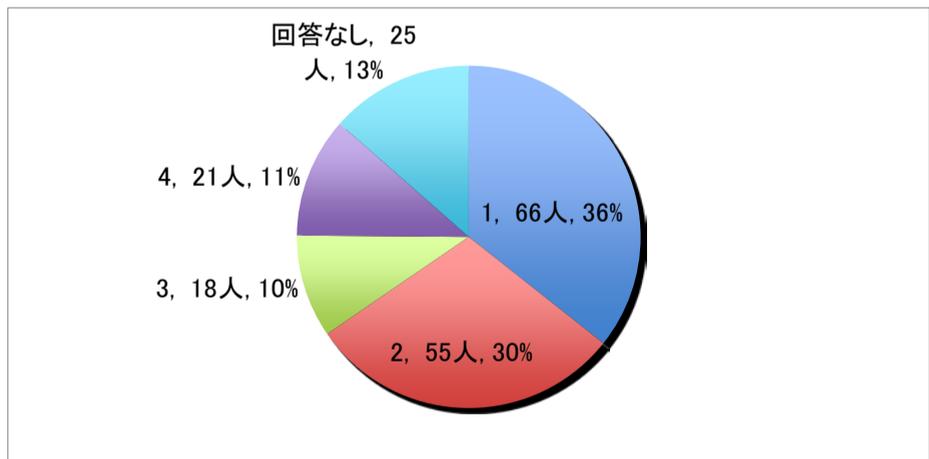
1	61人
2	65人
3	51人
回答なし	28人
回答数合計	205人



Q 6 「カワラノギクの保全活動報告」を聞いて、意識や考え方が変わった点がありましたか。（一部複数回答あり）

1. 河原の生態系保存の大切さ
2. 自然環境保全の大切さ
3. 川づくりへの参加意識
4. その他

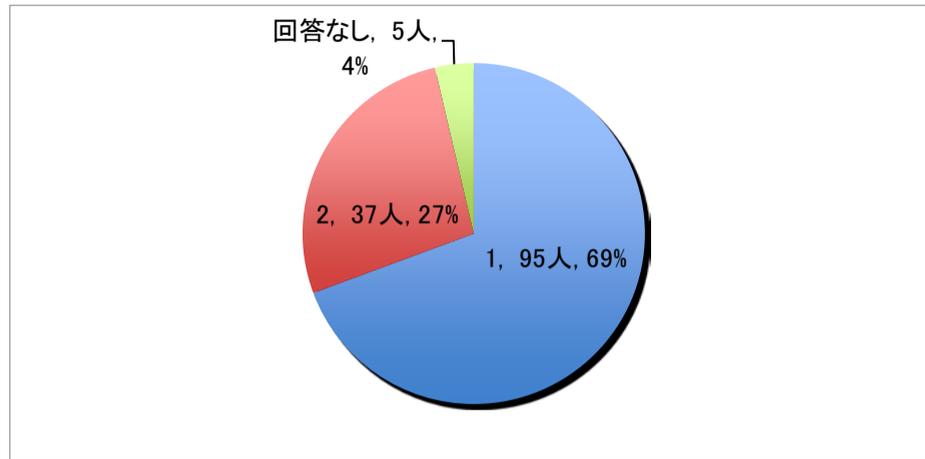
1	66人
2	55人
3	18人
4	21人
回答なし	25人
回答数合計	185人



Q 7 相模川は、山梨県では「桂川」と呼ばれ、その源流は、山梨県の山中湖にあることを知っていましたか。

1. 以前から知っていた 2. 今回初めて知った

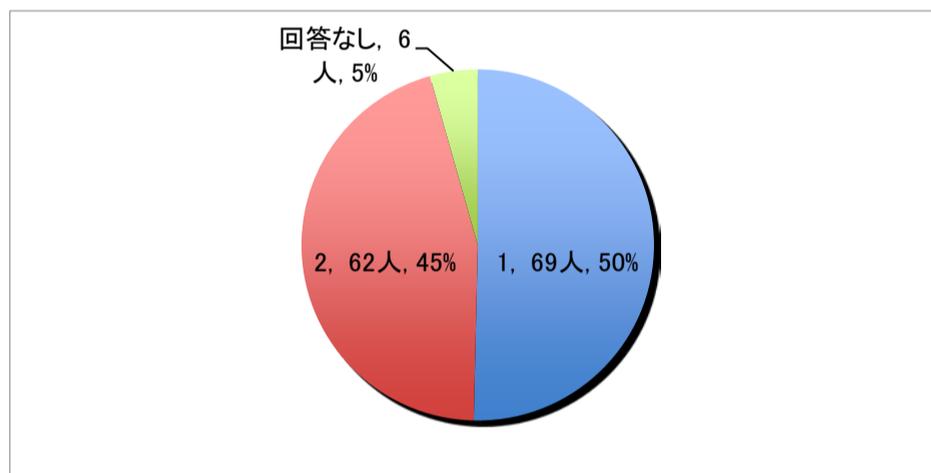
1	95人
2	37人
回答なし	5人
回答数合計	137人



Q 8 相模川水系の相模ダム、城山ダム、宮が瀬ダムの3つの水源の集水域（降った雨が川に流れ込む地域）の約8割は、山梨県内にあることを知っていましたか。

1. 以前から知っていた 2. 今回初めて知った

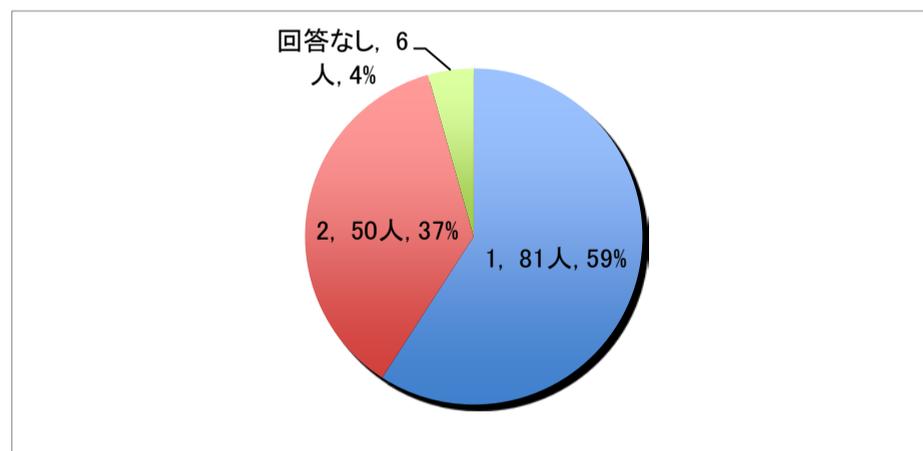
1	69人
2	62人
回答なし	6人
回答数合計	137人



Q 9 「水源環境保全税」を、以前から知っていましたか。

1. 以前から知っていた 2. 今回初めて知った

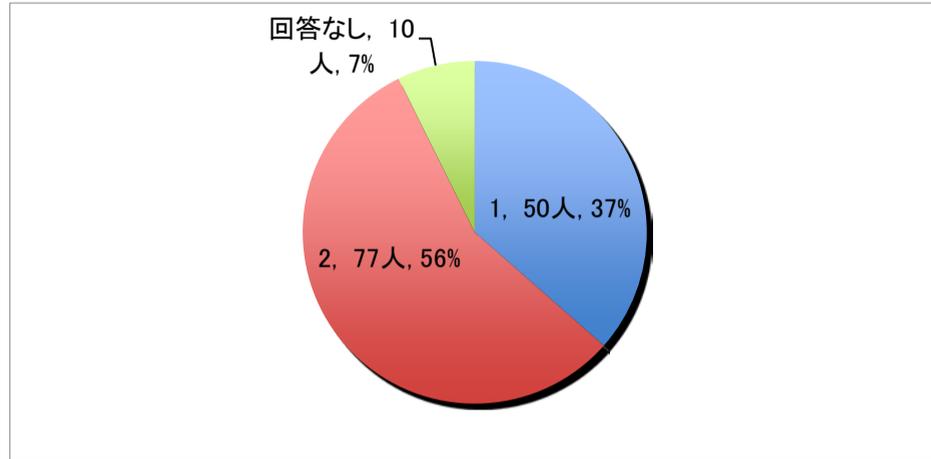
1	81人
2	50人
回答なし	6人
回答数合計	137人



Q10 今年度から、神奈川県民から頂いた「水源環境保全税」を活用して、山梨県と共同して山梨県内の森林整備や桂川清流センターで生活排水対策に取り組むことを知っていましたか。

1. 以前から知っていた 2. 今回初めて知った

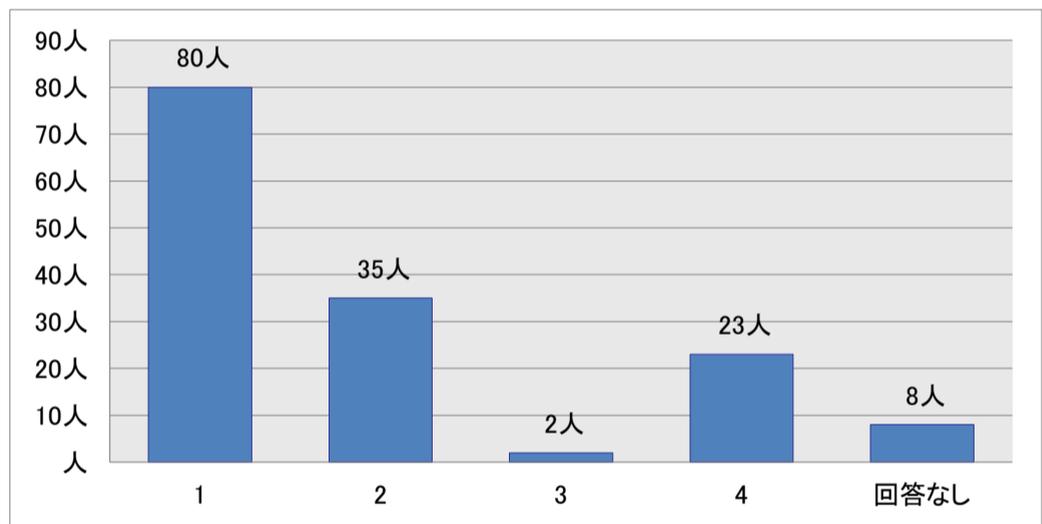
1	50人
2	77人
回答なし	10人
回答数合計	137人



Q11 「水源環境保全税」が、山梨県内の森林整備や桂川清流センターでの生活排水対策に活用されることについて、どう思いますか。（一部複数回答あり）

1. さらに拡充すべき 2. この事業規模で十分 3. 事業を縮小すべき 4. その他

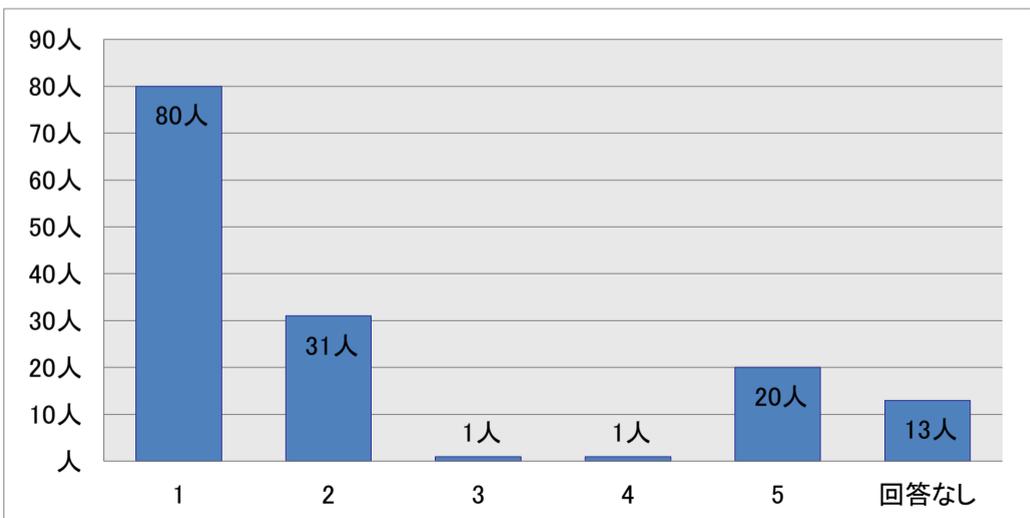
1	80人
2	35人
3	2人
4	23人
回答なし	8人
回答数合計	148人



Q12 「水源環境保全税」を活用した水源保全・再生の取組は今後どうしていきべきだと思いますか。

1. さらに拡充すべき 2. 現状維持 3. 縮小すべき 4. 廃止すべき
5. その他

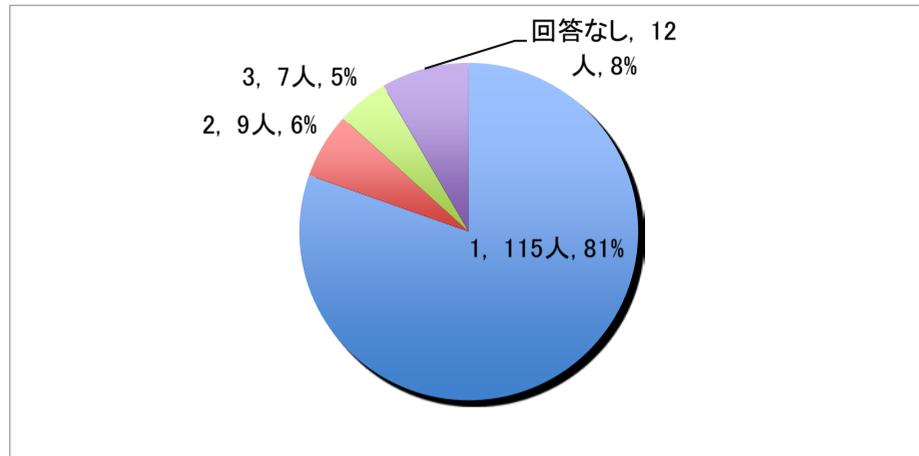
1	80人
2	31人
3	1人
4	1人
5	20人
回答なし	13人
回答数合計	146人



Q13 今回のイベントを通じて水源環境保全・再生の取組に興味・関心がわきましたか。

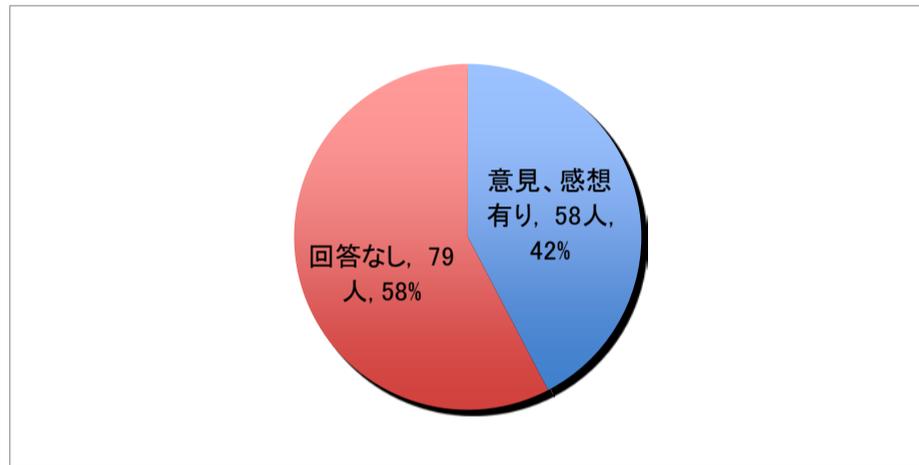
1. わいた 2. わかなかった 3. その他

1	115人
2	9人
3	7人
回答なし	12人
回答数合計	143人



Q14 桂川・相模川流域協議会についてのご意見、ご感想等がありましたら、お聞かせください。

意見、感想有り	58人
回答なし	79人
回答数合計	137人



Q15 水源環境保全・再生の取組に関してご意見、ご感想等がありましたら、お聞かせください。

意見、感想有り	19人
回答を希望する	15人
回答なし	103人
回答数合計	137人

